

結語：① 細胞電気法により酸性多糖体を作用させ、Active T-cell を測定出来る。② 妊婦の Active T-cell は HCG, 妊娠特有の蛋白, ホルモン等で mask されていると思われ泳動度は低下するが, 分娩後は可逆的に正常にもどると考えられる。③ 妊婦では Active T-cell が減少しているため遅延型皮膚反応の陽性率は低下する。

質問 (日本大) 雨宮 啓之

Total T-cell のパーセンテージは, どのような結果をお持ちでしょうか。

我々の検索にては妊婦 T リンパ球の数は不変ですが, PHA induced stimulation E-rosette formation を用いて検索しますと, 妊娠中期, 末期の血清存在下にて, 活性化する T-cell の低下をみました。このことは先生のおっしゃる active T-cell の減少するという結果と同じ意味を持つているでしょうか。

応答 (日本医大) 田畑 勝己

73年の Weybran の文献より Active E-RFC を行ない我 T-cell が Active T-cell と推定した。Active T-cell は妊娠前期では中期後期よりも低下している。Total T-cell も E-RFC で測定しているが, 同様に低下している結果を得ている。

#### 165. マウスの妊娠に対する Neuraminidase の影響 (名古屋市立大)

○鈴森 謙次, 高木 孝, 中根 茂雄  
中谷 剛彬, 八神 喜昭

Neuraminidase (N-dase) を妊娠初期マウスに投与することにより妊娠継続が障害されるが, その作用機序については, 免疫学的に barrier となつている trophoblast 細胞表面のムコ多糖類, 又は decidua に作用するのか, gonadotropin に作用するのか, 未解明の現況である。

今回我々は, 妊娠初期マウスに, N-dase, Progesterone, HCG を投与し, その妊孕状態を光顕的及び組織化学的に検索した。方法: 性成熟雌 ICR マウスの妊娠第4日, 第5日, 第6日, 第4・6日に N-dase を投与し, 対照群は buffer を投与した。N-dase (第4・6日) 投与群に, 第4日, 第4・5・6日に Progesterone, HCG を投与した。結果: buffer 投与群では, 着床率70.4%, 平均着床数14.9個であつた。N-dase (第5日, 第6日) 投与群では, 着床率81.8%, 平均着床数18.3個であり, N-dase (第4日, 第4・6日) 投与群では, 着床率33.3%, 平均着床数10.2個であつた。N-dase と Progesterone 及び HCG 投与群では, 着床率78.6%, 42.9%であり, 平均着床数は11.2個, 11.8個であつた。組織学的にみると, buffer 投与群と N-dase (第5日, 第6日) 投与群では, embryo, trophoblast, decidua に著変なく, コロイド鉄染色では, embryo, trophoblast, ectoplacental cone に陽性物質を認めた。N-dase (第4日, 第4・6日) 投与群では, embryo の変性, trophoblast-decidua 附着部の出血, decidua の浮腫及び lymphoid cell の増加があり, コロイド鉄染色では, embryo, trophoblast に陽性物質は認めなかつた。N-dase と hormon 剤投与群では, HCG 投与群に, embryo, trophoblast に変性を認めたが, Progesterone 投与群では著変なく, コロイド鉄染色では, 両群共に trophoblast, ecto-placental cone に陽性物質は認めなかつた。以上より, 妊娠第4日に N-dase を投与した群では, 本酵素は直接 trophoblast 細胞表面のムコ多糖類に強く作用していることを認めたが, Progesterone, HCG 投与群の結果からは, これらの薬剤も本酵素の trophoblast, decidua に対する障害を阻止し得ないことを認めた。

### 第12群 手術・麻酔 (166~176)

#### 166. 頸癌術後の尿管狭窄の成因に関する臨床病理学的検討

(久留米大)

○山上 健, 黒川篤一郎, 永田 邦子  
西尾 紘明, 梅津 純也, 加藤 俊

目的: 頸癌術後の尿管狭窄は上部尿路感染, 腎機能障害, 水腎症, 水尿管をおこし全身状態を犯すことは周知

の通りであるだけに临床上, 極めて重要な意義がある。その成因を臨床病理学的に追求してみた。

方法: ① 剖検40例による尿管狭窄部の検討。② 典型的症例の呈示。③ 動物に手術的操作を加え, その手術部の形態学的観察。④ 尿路変更術の際に認められる尿管狭窄部の組織学的検討

成績: ① 剖検例に認められる尿管狭窄には癌組織に